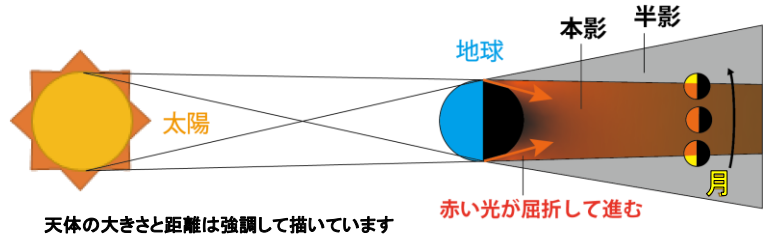


ジオスペース館だより

【知って楽しい！

★皆既月食の時でも、月が見えているのはなぜ？ 天文の基礎知識(8)】

11月8日は約5年ぶりに〈皆既月食〉が日本全国で見られました。しっかり観察された皆さんも多いことでしょう。さて、《月食》は、太陽—地球—月が一直線上に並んで、月が地球の影に入り、欠けてしまうように見える現象です。地球の影には、太陽の光をほとんど遮る〈本影〉と、本影を取り囲む薄い影の〈半影〉があり、一般的に《月食》は月が〈本影〉に入った場合を指します。また、月の一部分が〈本影〉に入ると〈部分月食〉、全体が入ると〈皆既月食〉となります。では、〈皆既月食〉中の月は地球の影に隠されて、全く見えなくなるのかというと、そうではなく、赤銅色といって赤黒く見えることが多いです。これは地球の周りに大気があるため、太陽の光が地球の大気中を進むと、青い光は空気分子によって散乱されてしまいますが、赤い光は散乱されにくく大気中を通り抜けます。しかも、大気がレンズのような役割をして光は屈折して進み、大気中を通り抜けた微かな赤い光が、本影の内側に入り込んで月面を照らすため、皆既中の月は赤黒く見えるのです。さらに、皆既中の月の色は月食のたびに変わります。大気中にチリが少ないと、大気を通り抜ける光の量が多くなり明るいオレンジ色に、逆にチリが多いと通り抜ける光の量が少なくなって、黒っぽく見えます。さて、次に日本全国で〈皆既月食〉が見られるのは2025年9月8日、翌年の2026年3月3日にも見られます。



★ いかいぼし(錨星)・やまがたぼし(山形星) 【星の和名のお話】

「錨星」はカシオペア座の星の並びの和名です。カシオペア座は北極星に近く、一年中北の空に見えていて、北極星を探す目印となっています。日本でも古くから、船乗りや漁師の人たちは海上で方角を知る重要な星として、Wの形を船のイカリに見立て、「錨星」と呼んでいました。また、北の空高くに昇っているときは、Wが逆さまになってMの形に見えることから、Mの形を2つ並んだ山に見立てて、「山形星」と呼ばれていたと伝えられています。



星図はステラナビゲーター11を用いて作成

★ 月が土星、木星に接近！

空が暗くなる頃、南の空の少し低いところに、秋の夜空で唯一の1等星フォーマルハウトが南中しています。今年は、フォーマルハウトを真ん中に、南東の高い空に木星、木星よりやや低い南西の空には土星と、2つの明るい惑星が並んでいます。そして、11月の終りから12月の始めにかけて、フォーマルハウトと2つの惑星の近くを月が通りすぎます。月は29日には、0.8等で輝く土星の南側を通り、毎日、東へ東へと移動して、12月の初めにかけて、マイナス2.6等でひときわ輝く木星へと近づいていきます。土星から木星へ接近する月をぜひ観察してみてください。



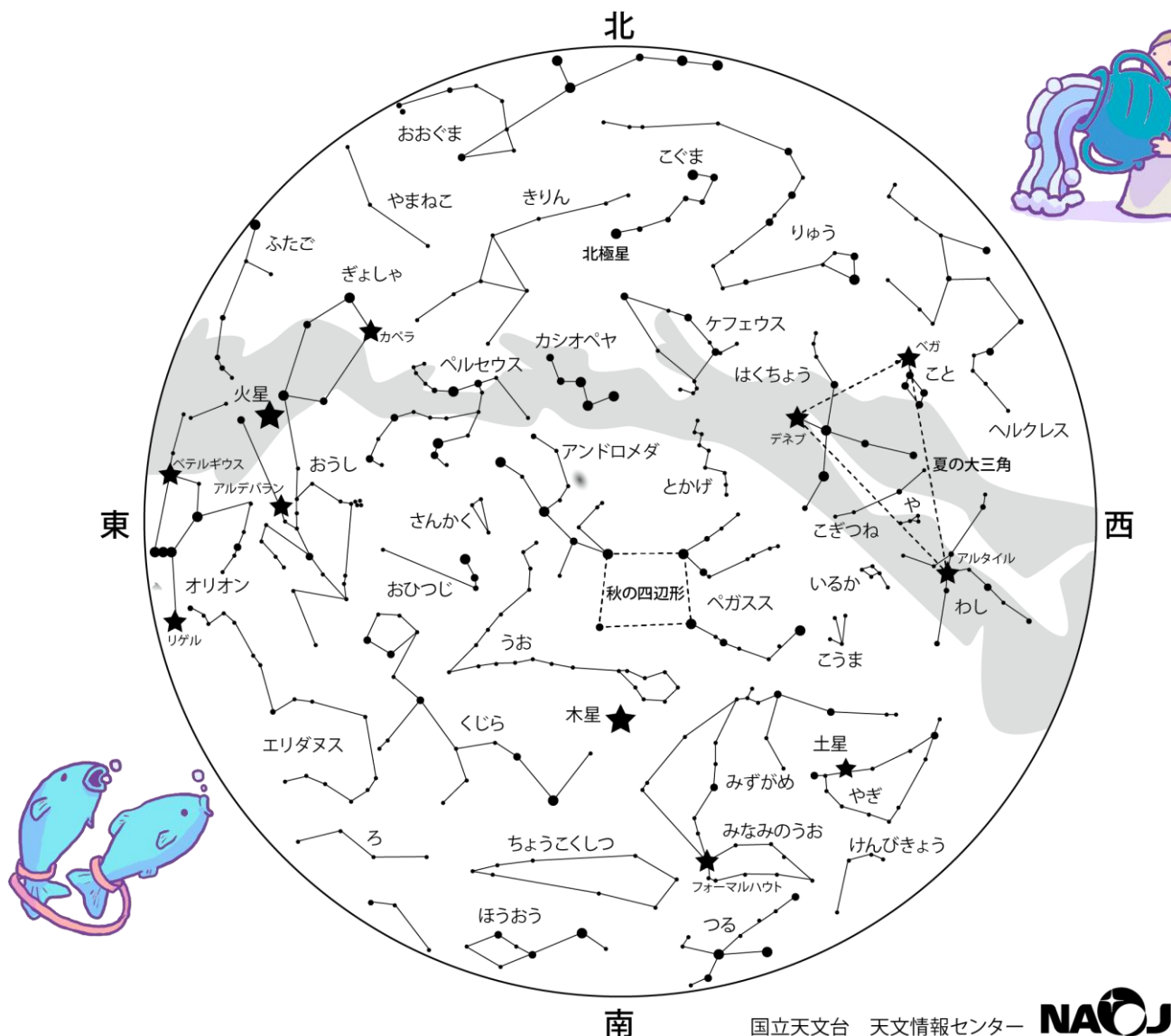
月は大きさを強調して描いています

★ 11月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 16(水)、21(月)、24(木)、28(月)

★ コロナ禍における感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

11月下旬午後7時30分頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NACJ**

★ 11月下旬の主な天文現象

16日(水) ● 下弦 <small>かげん</small>	24日(木) ● 新月 <small>しんげつ</small>
18日(金) しし座流星群が極大 <small>ざりゅうせいぐん きょくだい</small>	29日(火) 月が土星に接近 <small>せつ きん</small>
22日(火) 小雪 <small>しょうせつ</small>	30日(水) ● 上弦 <small>じょうげん</small>

★ 国際宇宙ステーション (ISS) 豊川での主なデータ 11/15~30 ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 11月17日(木) [見やすさ ◎]	18:08 南西 ~ 18:12 北東
◇ 11月18日(金) [見やすさ ◎]	17:19 南南西 ~ 17:26 東北東
◇ 11月19日(土) [見やすさ ○]	18:08 西 ~ 18:12 北
◇ 11月20日(日) [見やすさ ◎]	17:19 西南西 ~ 17:26 北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。